

伝えたい  
残したい  
わがまちの  
誇り



長野地区  
Nagano

# ふるさと の情景

VOLUME  
12

長野地区  
(長野神社のタイマツタテ)



① 点火され燃えあがる松明  
② 松明に巻く割竹を編む作業  
③ 葉のついた雑木を割竹に巻く作業  
④ 点火の前に行われる湯立神楽の様子

※長野神社へは河内長野駅から徒歩約2分。



1



4



3



2

**長**野神社のタイマツタテは、毎年10月11日に行われます。この行事の由来は定かではありませんが、「昔、神社の祭神である牛頭天王ごずてんのうを迎えるために松明たみまつを焚いた」ことが起源とされています。松明は10月1日に神社の境内で作製され、人の手と重機を用いて直径約1.5メートル、高さ約5メートルのものが完成します。松明の側面には鏑矢かざやを模した飾り、先端には唐傘が取り付けられ、11日まで安置されます。11日に神事が行われたのち、トウヤと呼ばれる祭礼の当番によって点火されます。

**現**在では参加者の減少や世代交代などにより、行事を取り巻く状況も変化しています。従来は決まった家が務めていたトウヤも、現在は神社の奉賛会と宝恵会の会員のみなさんで務めています。一方で松明の作製方法は昔から伝えられており、うるう年は作製方法が少し異なるなど、行事の古さがうかがえる部分も残っています。このようにタイマツタテは、変化を受け入れつつも伝統を守りながら受け継がれています。

## ふるさとのひと

北野賢式さん

私の祖父の時代よりずっと前からあったタイマツタテ神事。毎年10月1日に神社の氏子を中心に力を合わせて巨大な松明を作っています。今は重機の力を借りていますが、昔は人の力だけで持ち上げ、手押し車に乗せて周辺を練り歩きました。この伝統行事があるおかげで、地域のつながりも深まっています。長野神社責任総代として、今後もタイマツタテ神事を大切に守り続けねばと思います。

